

「イランにおける文書(14世紀まで)の研究状況」

I. イランにおける文書の研究史

羽田正による概観がすでに存在 [羽田 1991, 1995]

羽田正「イラン」『イスラム都市研究入門 [歴史と展望]』（羽田正・三浦徹編 東京大学出版会 1991）

同 「イラン（前近代）」『イスラーム研究ハンドブック』（栄光教育文化研究所 1995）

⇒・イラン史研究における文書史料利用の難しさ・他地域に比しての遅れを指摘
・校訂史料の重要性をすでに指摘 [羽田 1991]

多言語文書の文化圏

1. ヤールカンド文書

ヤールカンド：現中国ウイグル自治区「莎車」（カーシュガルの南）

1. P. Pelliot が持ち帰ったもの (Huart によって1914年発表) 3通
2. 1911年に発見され、カーシュガルのイギリス総領事 G. Macartneyの許にもたらされた後インド政庁に移転されたもの (写真版が Denison Rossの許に送られ、まず、1924年に Barthold によって1通発表され、Minorsky, Tekin による研究, Clauson の注解を経て、1984,1986年に Erdal, Gronke によって編集・研究された) 10通
[両者はほぼ同じ時期に発見されたと考えられる]
[後者はカーシュガル郊外の庭園の木の根本から見つけだされたと報告されている]

Huart, Cl., “Documents de l’Asie centrale (Mission Pelliot). Trois actes notariés arabes de Yârkand”, *Journal Asiatique* (JA), 11 série, 4 (1914)

Barthold, M(sic.), “The Bughra Khan Mentioned in the Qudatqu Bilik”, *Bulletin of The School of Oriental Studies* (BSOS), 3/2 (1923)

Minorsky, V., “Some Early Documents in Persian -- I --”, *Journal Royal Asiatic Society* (JRAS), (1942)

Tekin, Ş., “Bilinen en eski İslami Türkçe metinler: Uygur harfleriyle yazılmış Karahanlılar devrine âit tarla satış senetleri”, *Selçuklu Araştırmalar Dergisi*, 4 (1975)

Tekin, Ş., “A Qarahānid Document of A.D. 1121 (A.H. 515) from Yârkand”, *Harvard Ukrainian Studies*, 3-4 (1979-80).

Erdal, M., “The Turkish Yarkand Documents”, *Bulletin of The School of Oriental and African Studies* (BSOAS), 47/2 (1984)

Gronke, M., “The Arabic Yârkand Documents”, *BSOAS*, 49/3 (1986)

羽田亨『西域文化史』〔『西域文明史概論・西域文化史』（解説：間野英二），平凡社（東洋文庫）1992 所収〕（初版：座右宝刊行会 1948）に既に触れられている。

この世紀〔11世紀：カラハン家の勢力拡大に触れて〕の末にはカシュガル¹の南に当るヤールカンド（漢代以降莎車と称した地）にもイスラム教が行はれて居つたことは、新にこの地から出土した文書によつて明らかに証明せられて居る。その文書はペリオの獲た1096年に当る日附のあるこの地のトルコ人の土地売買に関するもので、イスラム教徒である役人の前で誓約され、用語はアラビア語、書式もイスラム教徒の間に行はれた普通の形であり、記名はアラビア文字と回鶻文字とを混用してある。アラビア文字の書けないものに対して回鶻文字を用ゐることが許されたに違いない。イスラム教の伝播以前、天山南路のトルコ人の間に行はれた此の種の文書は、用語はトルコ語、書式は全く唐に行はれた形を模したものであつたが、その伝播に伴うて、かゝる変化を見るに至つたのである。 <東洋文庫版 p.303>

＊ただし、両文字混用の記名は、Huartの提示した別の文書であり、1096年の文書には、ウイグル文字での記名はない〔間野の解説参照〕（アラビア文字の記名7名分中6名分が代筆）

ヤールカンド文書の内容

Erdal	I	473年(祢ミ)ラビーII月（1080年9-10月）	ウイグル文字トルコ語
Erdal	IV	483年ラジャブ月（1090年9月）	ウイグル文字トルコ語
Huart	I	489年ラマダーン月（1096年9月）	アラビア文字アラブ語
Gronke	I	494年ズルヒッジャ月1日（1101年9月27日）	アラビア文字アラブ語
[Barthold 1923]			
Gronke	II	503年シャアバーン月末（1110年3月14-23日）	アラビア文字アラブ語
Huart	II	505年シャウワール月（1112年4月）	アラビア文字アラブ語
			＊ウイグル文字トルコ語の記名
Huart	III	508年ラビーI月1日（1114年8月5日）	アラビア文字アラブ語
			＊ウイグル文字／アラビア文字トルコ語の記名
Gronke	III	515年サファル月24日（1121年5月14日）	アラビア文字アラブ語
			[Tekin 1979-80] ＊ウイグル文字／アラビア文字トルコ語の記名
Erdal	VI	515年ラビーII月（1121年6-7月）	アラビア文字トルコ語
			[Minorsky 1942] ＊アラビア文字トルコ語の記名
Gronke	IV	518年ズルカッダ月半ば（1124年12月24日）	アラビア文字アラブ語
Gronke	V	529年(ウマ)ズルカッダ月25日（1135年9月6日）	アラビア文字アラブ語
			＊ウイグル文字／アラビア文字トルコ語の記名
Erdal	II	ト年ラビーI月(?)	ウイグル文字トルコ語
Erdal	III	日付なし	ウイグル文字トルコ語の記名の断片
Erdal	V	日付なし	ウイグル文字トルコ語の記名の断片

注：Gronke I：474年ズルヒッジャ月1日（1082年5月2日）とも読める

2. シュルートの研究

Wakin, J., *The Function of Documents in Islamic Law*, Albany 1972.
“Introduction”より

イスラーム法：文書を法的証拠として用いることを拒否し、口頭の証言のみを証拠として採用



初期の頃から私文書（私権に関わる文書）が作成される

＜コーラン＞第2章282節

…お互い同士、一定の期限つきで貸借関係を結ぶ場合には、それを書面にしておくのだぞ。誰か書式を心得た者に双方の間に入って間違いのないように書いてもらうこと。…。どうしても書くのじゃ。そして債務を負う方の側が文句を口上で言う。アッラーを畏れかしこみ、いささかたりとも（額面を）実際より少なく言ったりしてはならぬ。… [井筒訳（岩波文庫）上：p.69]

法学者＝文書に対する態度を保留

コーランの命令を単なる忠告と解する

- ・ イスラーム法成立当時、文書証拠の拒否によって、イスラーム法の独占的使用を維持しようとする。
- ・ 善良なムスリムの言葉が価値を持つという、法に対する宗教的・倫理的基準の重視



文書書式学(shurūṭ)の確立＝9世紀後半、ハナフィー派において

Abū Ja‘far Aḥmad al-Ṭaḥāwī (d. 933), *Kitāb al-shurūṭ al-kabīr*
Kitāb al-shurūṭ al-ṣaḡhīr

＊Wakin 1972は、*Kitāb al-shurūṭ al-kabīr* の校訂・研究

文書を書く際の注意事項

＊後に記載事項に問題点が見つかって、再検討されないようにする必要

- ①当事者の特定： 契約当事者の名を父、さらに祖父に遡って記載し、人物を特定する。かつ、契約の当事者となる資格（成年であること；心身とも健全であること等）を確認する事項を記載する。
- ②対象物件の特定： 地域によって執筆事項は異なるが、おおよそ取引契約の対象物件の四囲の隣接物を書く
- ③契約金額の特定： 当事者間で物件の引き渡しに対して支払われた貨幣の種類と金額を書く。その際、金額の二分の一、もしくは三分の一の額の数字を挙げ、読み誤りのないようにする。
- ④契約終了の確認： イスラーム法においては、両契約当事者が、実際に別れたときに始めて契約が終了したと考える（別れ方には議論が存在する）。その終了を確認する文言（「別れた」）をいれ、さらに、契約が合法的に遂行されたことを確認する文言を入れる

＊法学派によって異なる意見が存在する場合は、後にその契約が無効になることを避けるために、その事項に関しては曖昧に書く

cf. Gronke, M., “La rédaction des actes privés dans le monde musulman médiéval: théorie et pratique”, *Studia Islamica* 59(1984)

3. アルダビール文書

(1) 紹介

Herrmann, G., “Urkunden-Funde in Āzarbāyğān”, *Archaeologische Mitteilungen aus Iran*, N.F. 4(1971)

Fragner, B., “Das Ardabiler Heiligtum im den Urkunden”, *Wiener Zeitschrift für die Kunde des Morgenlandes*, 67(1975)

(2) 校訂・研究

Herrmann, G., “Ein Erlass des Ġalāyeriden Solṭān Ḥoseyn aus dem Jahr 780 / 1378”, *Göttinger Orientforschungen* 1/Reihe Syriaca 3(1973)

idem., “Ein Erlass von Qara Yūsuf zugunsten des Ordens von Ardebīl”, *Archaeologische Mitteilungen aus Iran*, N.F. 9.

Herrmann, G. — G. Doerfer, “Ein persisch-mongolischer Erlass aus dem Jahr 725 / 1325”, *ZDMG* 125-2(1975).

idem., “Ein persisch-mongolischer Erlass des Ġalāyeriden Šeyḥ Oveys”, *CAJ*, 19-1/2.

Fragner, B., *Repertorium persischer Herrscherurkunden*, Freiburg 1980.

Gronke, M. *Arabische und persische Privaturkunden des 12. und 13. Jahrhunderts aus Ardabil (Aserbeidschan)*, Berlin 1982

idem., *Derwische im Vorhof der Macht*, Stuttgart 1993.

Gronke 1982 所収文書

I	517年ムハッラム月(1123年3月1日ー)	ペルシア語
XVIII	526年ラジャブ月(1132年5月18日ー)	アラビア語
III	567年ラマダーン月(1172年4月27日ー)	アラビア語
IV	582年サファル月16日(1186年5月8日)	ペルシア語
V	599年ズルヒッジャ月(1203年8月11日ー)	アラビア語
VI	602年ムハッラム月10日(1205年8月27日)	ペルシア語
VII	603年ズルカッダ月(1207年5月30日ー)	ペルシア語
VIII	604年ジュマーダー I 月(1207年11月23日ー)	アラビア語
IX	606年ムハッラム月(1209年7月6日ー)	アラビア語
X	609年シャアバーン月10日(1213年1月5日)	アラビア語
XI	612年ズルヒッジャ月(1216年3月22日ー)	アラビア語
XII	615年ラビー I 月 3 日(1218年 3 月30日)	アラビア語
XIII	619年ムハッラム月(1222年2月15日ー)	アラビア語
XIV	619年サファル月(1222年3月17日ー)	アラビア語
XV	620年ジュマーダー I 月3日(1223年6月4日)	アラビア語
XVI	625年サファル月(1228年1月11日ー)	アラビア語
XVII	626年ジュマーダー I 月13日(1229年4月9日)	アラビア語
XX	630年シャアバーン月5日(1233年5月17日)	アラビア語
XXI	646年サファル月(1248年5月26日ー)	アラビア語
XXII	647年ラビー II 月(1249年7月14日ー)	アラビア語
XVa	648年シャアバーン月(1250年 1 0 月29日ー)	アラビア語
XXIII(original)	649年(1251年3月26日ー)	アラビア語
XXIV	652年ジュマーダー I 月(1254年6月19日ー)	アラビア語
XXV(original)	653年ラビー I 月1日(1255年4月10日)	アラビア語
XXV(copy)	654年ラビー I 月12日(1256年4月9日)	アラビア語
XXIII(copy)	701年(1302年9月6日ー)	アラビア語
VIIa	771年ラビー II 月(1369年11月2日ー)	アラビア語
XIa	日付不明	アラビア語

4. ヒヤル

- Turan, O., “Selçuk Türkiyesi'nde Faizle Para İkazına Dair Hukukî Bir Vesika”, *Belleten* 16(1952)
idem., “A Legal Document Concerning Money-lending for Interest in Seljukian Turkey”, *Armaghān-i 'Ilmī: Professor Muḥammad Shafī' Presentation Volume*, Lahore 1955.

697年ラビーⅡ月23日(1298年2月7日)づけ
利子禁止を回避する土地貸借に関する契約の文書

＊ヒヤルに関しては、Schacht による理論書の校訂が出されているが未研究

ex. Schacht, J., *Das kitāb al-ḥiial fil-fiqh (Buch der Rechtskniffe)*, Hannover 1924

5. ウイグル文字形式モンゴル文字モンゴル語文書

- Ligeti, L., *Monuments préclassique, I, XLe et XIVe siècle*, Budapest 1972, pp.239-74
イルハン朝期モンゴル語文書・書簡等のテキストの集成
(上記Hermann—Doerferはアルダビール文書中の新出文書を含む)

＊代表的事例

1320年付けイルハン、アブーサイードによるワクフ係争に関する勅令文書
[Shaykh Ṣafī al-Dīn Ardabīlī のムルシド(師) Shaykh Zāhid のワクフに関わる]

(1)紹介とファクシミリ版の提示

Peiliot, P., “Les trois documents mongols du Musée de Teherān”, *Āthār-é Īrān, Annales du Service Archéologique de l'Iran*, 1(1936)

(2)英訳と訳注

Cleaves, F.W., “The Mongolian Documents in the Musée de Téhéran”, *HJAS*, 16(1953)

(3)文書中の人名・地名の比定、勅令発布状況の考察

Minorsky, V., “A Mongol Decree of 720/1320 to the Family of Shaykh Zāhid”, *BSOAS*, 16(1954)

(4)Minorskyの説の確認

Cleaves, F.W., “SAQID = ZĀH(I)D”, *HJAS*, 18(1955)

idem., “AQA MINU”, *HJAS*, 24(1963)

(5)歴史学研究の利用へ

Aubin, J., “Propriété foncière sous les Mongols”, *Le Monde Iranien et l'Islam*, 4(1977).

Gronke, M., *Derwische im Vorhof der Macht*, Stuttgart 1993

II. ワクフ文書

1. 法学書記載の文書

(1) Dār al-Fil 「象の館」ワクフ文書

エジプト8世紀初頭設定の当該ワクフの受益権をめぐる訴訟の記録
法学書におけるもっとも著名な「練習問題」

愛宕あもり「Dār al-Fil のワクフ訴訟について」『西南アジア研究』29(1988)
Coulson, N.J., *A History of Islamic Law*, Edinburgh 1964.

(2) カラ＝ハン朝君主建造の病院とマドラサに関する2通のワクフ文書

458年ラジャブ月(1066年5月29日ー)；日付不明

Khadr, M., “Deux actes de WAQF d’un Qaraḥānide d’Asie centrale”, *JA* 255 (1967)
Bosworth, C.E., “À propos de l'article de Mohamed Khadr: “Deux actes de *waqf*
d'un Qaraḥānide d'Asie centrale”, *JA* 256(1968).

2. ルーム＝セルジュク朝期

Turan, O., “Selçuk Devri Vakfiyeleri”

I. Şemseddin Altun-Aba, Vakfiyesi ve Hayatı, *Belleten*, 11-42(1947)
598年ラジャブ月(1202年3月27日ー)

II. Mübârizeddin Er-Tokuş ve Vakfiyesi, *Belleten*, 11-43(1947)
669年ラジャブ月13日(1271年2月25日)

III. Celâleddin Karatay, Vakıflar ve Vakfiyeleri, *Belleten*, 12-45(1948)

キャラヴァンサライ：

ワクフ発効：643年ズルヒッジャ月1日(1246年4月19日)

ワクフ文書作成：645年ラビー I 月15日(1247年7月20日)

マドラサ：651年ジュマードー I 月15日(1253年7月13日)

マスジド：646年サファル月15日(1248年6月9日)

[アラビア語ワクフ文書の校訂・トルコ語訳・ファクシミリ]

Temir, A., *Kurşehir Emiri Caca Oğlu Nur El-Din'nin 1272 Tarihli Arapça - Moğolca Vakfiyesi*, Ankara 1989.

[アラビア語ワクフ文書・モンゴル語文書・トルコ語訳]

<実態不明>

3. チャガタイ・ウルス期中央アジア

Арендс, А.К.; А.Б.Халидов, О.Д. Чехович, *Бухарский Вакф XIII в.*, Москва 1979.
[1299年の文書]

Чехович, О.Д.; *Бухарские документы XIV века*, Ташкент 1965.

[Şayf al-Dīn Bākhārī 関係の1326年、1333年の2通]

加藤和秀「(史料紹介) 14世紀ブハラのワクフ文書」『東洋学報』52-4(1970)

4. イルハン朝期

i) ラシード区ワクフ文書

ラシード：Rashīd al-Dīn Faḍl-allāh Hamadānī (d.1318)

- ・イルハン朝後期の最有力の政治家
- ・世界史『集史(Jāmi' al-Tawārīkh)』の著者

ラシード区 Rab'-i Rashīdī

タブリーズ郊外にラシードが設立した慈善・文化施設群

ラウダ(rawḍa)「マドラサ＋ジャーミ」・ハーンカー・病院等を中心とする

709年ラビー1月1日(1309年8月9日)付けワクフ設定

ペルシア語

Afshār, Ī., “The Autograph Copy of Rashīd-al-Dīn's Waqfnāmeḥ”, *CIAJ*, 14(1970).

idem., “Awqāf-i Rashīdī dar Yazd”, *Farhang-i Īrān-Zamīn*, 17(1970) [最初の校訂]

Fragner, B., “Zu einem Autograph des Mongolenwesirs Rašīd ad-Dīn Fazlallāh, der Stiftungsurkunde für das Tabrizzer Gelehrtenviertel Rab'-i Rašīdī”, *Festschrift deutscher Iranisten zur 2500-Jahrfeier Irans*, ed. W. Eilers, Stuttgart 1971.

ファクシミリ版：*Waqfnāma-yi Rab'-i Rashīdī: al-Rashīdiyya. The Act for the Pious Foundation made by Rashīd-ad-Dīn Fazlullāh*, eds. Minuwī, M. & Ī. Afshār, Tehran 1350/1971.

校訂テキスト：*Waqfnāma-yi Rab'-i Rashīdī*, eds. Minuwī, M. & Ī. Afshār, Tehran 2536/1978.

驚くほど研究が遅れている

van Ess, J., *Der Wesir und seine Gelehrten*, Wiesbaden. 1981

＊校訂版入手直後の研究；十全に利用できていない

＊van Essも述べるが、校訂テキストを用いて初めて、利用可能になる

Blair, S.S., *Ilkhanid Architecture and Society: An Analysis of the Endowment Deed of the Rab'-i Rashīdī*, *Iran* 22(1984)：＊ラシード区の機能の再構成

岩武昭男

1994 「ラシードウッディーンの著作活動に関する近年の研究動向」『西南アジア研究』40

1995 「ラシード区ワクフ文書補遺写本作成指示書」、『アジアの社会と文化』関西学院大学東洋史学研究室（編）（法律文化社）.

1997 「ラシード著作全集の編纂：『ワッサーフ史』著者自筆写本の記述より」『東洋学報』78-4.

＊写本作成指示書の訳出とそれを利用した研究

Hoffmann, B., “The Gates of Piety and Charity. Rašīd al-Dīn Faḍl Allāh as Founder of Pious Endowments”, *L'Iran face à la domination mongole*, ed. Aigle, D., Téhéran 1997.

Lambton, A., “Awqāf in Persia: 6th-8th/12th-14th Centuries”, *Islamic Law and Society*, 4-3(1997)

＊改めての概観；*Jāmi' al-Khayrāt*との比較を含む

岩武「イルハン朝期のイドラルール(idrār)：モンゴルのイラン支配の一齣」『オリエンツ』41-2(1998)：＊ワクフ物件中の「年金」の整理

ii) 『慈善集 (*Jāmi' al-Khayrāt*)』

- Afshār, Ī., “Rashīd al-Dīn Faḍl-allāh wa Yazd”, *Majmū'a-yi Āthār-i Rashīd al-Dīn Faḍl-allāh Hamadānī*, Tehran. 1350/1971
Aubin, J., “Le patronage culturel en Iran sous les Ilkhans. Une grande famille de Yazd”, *Le monde iranien et l'Islam* 3(1975).
Holod-Tretiak, R., *The Monument of Yazd. 1300-1450: Architecture, Patronage and Setting*, PhD Dissertation, Harvard University 1972.
岩武昭男「ニザーム家のワクフと14世紀のヤズド」『史林』72-3(1989).

『慈善集 (*Jāmi' al-Khayrāt*)』

アラビア語

ニザーム家 Rukn al-Dīn Muḥammad (d.732/1331-32) と

その息子 Shams al-Dīn Muḥammad (d.733/1333) 父子のワクフ文書集

I 群 [16件のワクフ] : Rukn al-Dīn [ヤズドのカーディー] のワクフ

ルクニーヤ・マドラサ (725/1325年完成) 中心

725/1325年に最初のワクフ設定→その死732/1331-32年までにワクフ設定

II 群 [6件のワクフ] : Rukn al-Dīnの遺産をShams al-Dīnがワクフ設定

Rukn al-Dīnの死732/1331-32年以降, 733/1333年までに設定

III 群 [22件のワクフ (20件のワクフ文書)] : Shams al-Dīnのワクフ

シャムスィーヤ・マドラサ (727/1327年ワクフ設定) 中心

727/1327年に最初のワクフ設定→その死733/1333年までにワクフ設定

全体 (文書集としての『慈善集』)

733年ラジャブ月28日 (1333年4月14日)

バグダードの大カーディー Muḥammad b. 'Umar al-Faḍlī により認可

*733年ラジャブ月(1333年4月)までに, Shams al-Dīnが自身のワクフ (III群) に関しては変更を加えながら, 父と父に関連するワクフ文書 (I・II群) を併せて, 文書集を形成

*『ラシード区ワクフ文書』『慈善集』を用いて

岩武 1998 および以下の口頭発表

「イルハン朝期イラン社会史考——医師ラシードと地方都市ヤズド——」

[史学会第95回大会(1997.11.9.)] 要旨『史学雑誌』106-12(1997)

「地方から中央へ——イルハン朝期イラン社会における中央指向の意味——」

[日本中東学会第14回年次総会(1998.5.10.)]

(岩武HP: URL<<http://members.aol.com/aiwatake/HP.pdf.htm>>にPDFでレジュメ)

iii) *Farhang-i Īrān-Zamīn* 誌

多くのワクフ文書の校訂を掲載 (イルハン朝期のものをリスト化すると)

4(1335/1956) "Waqfnāma-yi sih dīh dar Kāshān", ed. Ī. Afshār [岩武 1992]

* 9(1340/1961) *Jāmi' al-Kbayrāt*, eds. Afshār, Ī. va M.Taqī Dāniš-pazhūh.

17(1349/1970) "Awqāf-i Rashīdī dar Yazd", ed. Ī. Afshār.

19(1352/1973) "Sawād-i waqfnāma-yi Dih-i Namak az rū-yi khatt-i 'Alā' al-Dawla Simnānī", ed. Ḥusayn Maḥbūbī Ardakānī.

21(1354/1975) *Waqfiyya-yi Kujujī. Abwāb al-Birr-i Shaykh Ghiyāth al-Dīn Muḥammad Kujujī ba-sāl-i 782 hijrī*, facsimile ed. Ī. Afshār.

*:再録: Intishārāt-i Farhang-i Īrān-Zamīn, 6.1341/1962

Afshār, Ī., *Yādgār-hā-yi Yazd*, Tehran 1348/1969, II (2 vols.), Tehran 1354/1975.